

安全文化を根付かせる

これまで培ってきた「安全文化」を、安全の取り組みの土台としてさらに根付かせ、深度化してまいります。

JR東日本グループの5つの安全文化を根付かせる

① 正しく報告する文化

発生した事故・事象を速やかに正しく報告し、事故の再発防止に活用します。

② 気づきの文化

事故・事象に結びつく前の、「埋もれている事故の芽」に気付いて、情報を共有化し、事故防止に活用します。

③ ぶつかり合って議論する文化

原因を究明する際、様々な意見を出し合い、ぶつかり合って議論することで、背後要因を捉え、真に有効な対策につなげます。

④ 学習する文化

自分以外・自分の職場以外で発生した事故・事象についても、自らの事として置き換え、教訓を学び、具体的な対応に結びつけていきます。

⑤ 行動する文化

最終的に具体的な安全行動に結びついて、はじめて安全は確保されます。「自ら考え、自ら行動する」、これが安全を支える源になります。

“三現主義”をさらに進める

安全の問題は常に「現場[※]」で起こります。問題が「現場」で起こるということは、答えも「現場」にあります。「現地・現物・現人」の“三現主義”により、机上だけでは分からない「答え」を模索していきます。

[※]現場 「現業機関という意味ではなく、お客さまとの接点、輸送・サービスの原点である、直接安全に関わる作業を行う現地・現物・現人」を意味します。

全員の力でチャレンジ・セイフティ運動を進める

会社発足以来、「守る安全」から「チャレンジする安全」に転換し、CS運動を展開してきました。「チャレンジする安全」とは、CS運動の原点であり、社員一人ひとりが、自分が主人公であるという主体性（発意）を持ち、

- ・「事故から学ぶ」「他企業から学ぶ」ことを通じ、危険に対する想像力を高め、安全に対する感性を磨く
- ・「マイ・ヒット」などの気づきを共有する
- ・現地を見たり、イメージトレーニングをしたりして、気がかりな事項を掘り起こすなどの具体的な取り組みについて全員で考え、議論しながら行動することです。